



アカシア俳句会

秋季俳句会 (令和三年九月) 「句報」 兼題：月、台風 (含・子季語)

「選句」 赤文字：特選

「投句」 作品

作者

恵福	天の川運河に浮かぶ工場の灯 海花火鳥居綾なす巖島	戸堂博之 戸堂博之
恵巨克	「月光」の余韻を醸すペダルかな	戸堂博之
崎恵通徳	鏑奔る運休路線に彼岸花	戸堂博之
茂以徳亘	瀬祭忌ひとつ嬉しき句評きて	戸堂博之
通	片仮名の過去の台風懐かしむ	吉澤志保子
佑訓	薔割って叱られし日よ桔梗咲く 僧辞して初盆の客さざめけり	中野亘子 中野亘子
永	「序破急」と鳴いて飛び立つ法師蟬 十六夜の月を拭ひて驟雨去る	中野亘子 中野亘子
展敏訓由克秀	一瞬の陽光雨の墓参り	中野亘子
永	新月を称え合唱関学生 五輪など視る暇ありや医の現場	西村敏治 西村敏治
志	医者不足目覚めぬ政府闇夜ゆく ジャンボ機よ完璧であれば闇のよる	西村敏治 西村敏治
茂崎訓志由克永秀	ジャンボ機のトラブルあれば修羅闇夜	西村敏治
永	鉄筆が蠟紙を削る土生俳句 シヨールへイは異星人かと草雲雀	本多通博 本多通博
青空に折線グラフ赤とんぼ	故郷の山稜冥し天の川	本多通博
門を父子で締める野分かな		本多通博
台風に洪水火災温暖化		都 福仁
震度七ブラックアウト月も無く		都 福仁
札幌のマラソン終わり秋立ちぬ		都 福仁
ハンモック見上げる紅葉青い空		都 福仁
大雪に白赤緑競う秋		都 福仁

敏	赤とんぼ開かずの窓を掠めゆく	佐藤多恵子
佑展福克	背を曲げて秋思のさまと自嘲せり	佐藤多恵子
崎	毬割れてたちまち光帯ぶる栗	佐藤多恵子
展以由	亡き人の数々思ひ食む葡萄	佐藤多恵子
由秀	河内野の早稲田をちこち黄金色	佐藤多恵子
訓福志	鶏頭の緋色きわだち空青し	加龍恵子
展	本堂のガラス萩垂れ仏元	加龍恵子
	大空に義足飛び跳ねパラの秋	加龍恵子
	届終え月下のウーバーリユック跳ね	加龍恵子
	お帰りと満月冴えて家路前	加龍恵子
克博	名月に屋上で飲む一人酒	佐藤茂弘
	画面見て台風(かぜ)それたと鉢を出す	佐藤茂弘
佑以敏	詰将棋詰さぬ間に月消える	佐藤茂弘
博	なつかしき命つないだ芋二つ	佐藤茂弘
	登ったよ九・一一あのビルに	佐藤茂弘
徳	医者帰り各駅電車夏涼し	富岡訓子
亘	頼りなき吾足取りも蟬の飛ぶ	富岡訓子
佑志	祥月の命日多き九月かな	富岡訓子
茂徳	抱くたび軽くなるねこ白い秋	富岡訓子
	両手からこぼれし命秋深く	富岡訓子
敏	月に立ち青き地球を愛でむ日よ	網 佑子
徳	野分き去り重き雲層夕日染む	網 佑子
敏亘	可惜(あたり)命特攻偲ぶ敗戦忌	網 佑子
以博	憂ひなき虫の音清(すが)し歩を緩め	網 佑子
福	オリパラの感動熱し秋冴ゆる	網 佑子
永	台風近し木々も全身力込め	野本展子
訓	月無くもそれを句に詠む母の才	野本展子
博秀	かなかなや誰に尋ねて鳴くのやら	野本展子
	頭下げ食べて食べてと稲穂かな	野本展子
	ズッキーニをプッチーニと言う母の脳	野本展子
茂崎博	子に呼ばれ月見に出たがもう隠れ	吉田以登
展	清水洞時を忘れず彼岸花	吉田以登
通	秋の虫寝ても覚めても休みなく	吉田以登
	穂すすきや朝日に金の揺れどおし	吉田以登
茂由	秋入日見んとて父と海岸へ	吉田以登

志	亘	福永	恵	通
旧交や猪口がコップへ温め酒	曼茶羅や落葉の道を歩きけり	根返りて巨木横たふ台風過	漆黒の宙（そら）や煌々月哀し	祝酒家路浮かれし星月夜
前田秀一	前田秀一	前田秀一	前田秀一	前田秀一
				夫とふたり夕餉の卓に虫の声
				台風の生まれる海よ草の花
				なぜ人を殺すアフガン露の朝
				アフガンの政変線状降水帯
				ひとすじの風秋晴れの木の間より
				山家由紀

【選句についてお願い】

- 一、お一人五句選句して頂き、その「句番号」をお寄せください。
- 二、選句の内「特選句」一句の番号の後ろに「特選」と記入して下さい。
- 三、「特選句」について、五〇文字以内で句評をお願いします。

投句、選句者氏名

() 内は選句者略号(五十音順)

網 佑子(佑)、井狩 修(修)、岩崎悦子(崎) 岩壺克哉(克)、加龍恵子(恵) 楠野圭子(圭)、
 小松康子(康)、斎藤優子(優)、佐藤多恵子(多)、佐藤茂弘(茂)、戸堂博之(博)、富岡訓子(訓)、
 中野亘子(亘)、中野陽典(陽)、西村敏治(敏)、野本展子(展)、本多通博(通)、前田秀一(秀)、
 三木徳彦(徳)、都 福仁(福)、宮本智乃(智)、元永悦子(永)、山家由紀(由)、吉澤志保子(志)
 吉田以登(以)

編集人 前田秀一